# モデルコース A 大阪城公園内の史跡と戦跡を訪ねる

（全 16 箇所 目安 2 時間 50 分 ピースおおさか見学 1 時間を含む）

**スタート地点** 天満橋駅（京阪・Osaka Metro 谷町線）

1. 大阪砲兵工廠化学分析場
2. 大阪砲兵工廠荷揚げ門（川の対岸から見る）
3. 砲兵工廠跡碑
4. 青屋門（1969 再建）
5. 真心碑（女子防空通信手の碑）
6. 山里曲輪の石垣に残る機銃掃射あと
7. 大阪城天守閣のずれた石垣
8. 旧第四師団司令部
9. 大阪に残る戦争の傷跡銘版
10. 大阪陸軍兵器支廠本部門
11. 大手門
12. 原爆被爆者三十周年記念樹
13. 教育塔
14. 城南射撃場跡碑
15. 大阪府傷痍軍人会・同妻の碑
16. ピースおおさか（大阪砲兵工廠診療所跡）

**ゴール地点** 森ノ宮駅（（JR 環状線・Osaka Metro 中央線・長堀鶴見緑地線）

ちょっと足をのばせば ● 京橋駅爆撃被災者慰霊碑があります。（JR 京橋駅南改札口付近）

# モデルコース A 大阪城公園内の史跡と戦跡を訪ねる

（全 16 箇所 目安 2 時間 50 分 ピースおおさか見学 1 時間を含む）

## ① 大阪砲兵工廠化学分析場

1919（大正 8）年、寝屋川にかかる京橋の南側に建てられた左右対称のネオ・ルネッサンス風赤レンガ 2 階建の重厚な建物。新兵器の開発や研究、化学試験などがここで行われていた。戦後すぐは大阪大学工学部校舎、その後1995（平成7年）年まで自衛隊大阪地方連絡部庁舎として使用されていた。建築家の置塩章（おしおあきら）氏の設計による。

## ② 大阪砲兵工廠荷揚げ門

設立当初の砲兵工廠は、材料の搬入や製品の輸送を水運に頼っていたため、1871（明治 4）年、平野川（第二寝屋川）に水門を設けてスロープをつけ、船が工場内に出入りできるようにし、荷揚げ、積み込みを行っていた。その花崗岩造りのルネサンス風の美しいアーチ水門が大阪城ホールの北西側に残っており、対岸側から見ることが出来る。

## ③ 砲兵工廠跡碑

「砲兵工廠跡」と刻まれた高さ 1.5m、幅 2m の花崗岩の記念碑。1959（昭和 34）年に、もと工廠従業員の親睦団体「大阪廠友会」が碑を建てた。8 月 14 日の最後の大空襲で最も多くの犠牲者を出した第 3 旋工場跡地に建てられていたが、1983（昭和 58）年にここに移設された。碑面裏には、砲兵工廠の沿革、概要が記されている。

## ⑥ 山里曲輪石垣の弾痕

1945（昭和 20）年頃になると、大阪城上空にもアメリカ軍戦闘機がたびたび現われた。山里曲輪付近の石垣には、その戦闘機の機銃掃射によるものと思われる弾痕が、いくつか残っている。なかには直径が 30cm くらいの大きな弾痕もある。終戦直後は、城内あちこちの石垣が崩れるなど荒廃しきっていたが、その後、修復・整備され現在にいたっている。

## ⑦ 大阪城天守閣のずれた石垣

1945（昭和 20）年の大阪大空襲では、天守閣そのものの破壊は免れたが、屋根に無数の焼夷弾が落ち、西南隅と東北隅には 1 トン爆弾が落ちた。西南隅は石垣下部の一部が吹き飛ばされ、現在は石板を貼って補修している。東北隅は直撃を免れたものの土台基部がえぐられ、石垣が傾いた。現在見られる石垣のずれはそのためである。

## ⑧ 旧陸軍第四師団司令部庁舎

1931（昭和6）年竣工。陸軍第四師団司令部庁舎として天守閣復興資金の過半を割いて建設し陸軍に寄付された純軍事施設で、ドイツの古城を模した地下1階地上3階（中央部分4階）の重厚な建物。1940（昭和15）年～45（昭和20）年、中部軍管区司令部庁舎になった。戦後は占領軍の施設にあてられ、立ち入りが禁止された。1945（昭和20）年、本土空襲に備えて司令部前一帯に地下壕が掘られた。延べ300mの地下壕で、戦後、この地下壕はある程度埋められた。

# モデルコース A 大阪城公園内の史跡と戦跡を訪ねる

（全 16 箇所 目安 2 時間 50 分 ピースおおさか見学 1 時間を含む）

## ⑩ 大阪陸軍兵器支廠本部門

天守閣南にある第四師団司令部を中心として、その周辺には、大阪砲兵工廠をはじめとする軍施設が集中していた。その一つとして西側に大阪陸軍兵器支廠があり、兵器、兵器材料の保管、修理などにあたっていた。現在の西ノ丸庭園一帯約 15 万㎡（5 万坪）に多くの倉庫等があった。戦後、建物は撤去されたが、西ノ丸庭園南側の大阪城公園城内詰所の門柱と塀は当時のものである。

## ⑪ 大手門

大手口は大阪城の表玄関にあたる。1628（寛永 5）年に建造。幕末に修復、さらに終戦後に解体修理された。大手門は戦火を免れた貴重な建造物で、現在、重要文化財に指定されている。

## ⑯ ピースおおさか

第二次世界大戦末期の 50 回をこえる空襲により大阪は廃墟と化した。空襲の被害を記録し戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝えるために、大阪府と大阪市が共同で設置。館内では、空襲の被害や戦時下の生活のようすなどを映像や実物資料・模型などで紹介。中庭には大阪空襲犠牲者の名前が刻まれたモニュメントがある。

## ● 京橋駅爆撃被災者慰霊碑

1945（昭和 20）年 8 月 14 日、B29 爆撃機 145 機が大阪砲兵工廠に 707 トンの爆弾を投下した。1 トン爆弾 4 発が国鉄（現 JR）京橋駅に落ち、片町線ホームを 1 発が直撃し、数百人の命が奪われた。悲惨さに衝撃を受けた大東市の森本栄一郎氏が 1947（昭和 22）年 8 月 14 日慰霊碑を建立。その後、仏尊像と納経塔が建立され、毎年 8 月 14 日空襲のあったこの地で慰霊祭が行われている。